

409 胸腺シンチグラフィにおける²⁰¹Tl:他核種との比較

中西文子、春日敏夫、大畑武夫、小林敏雄、(信大、放) 榎 英樹、(同大、外) 矢野今朝人、平野浩志(同大、中放)

胸腺腫および過形成の核医学的検査には、⁶⁷Ga-citrate、⁷⁵Se-selenomethionineが使用されてきた。最近²⁰¹Tl-chlorideが胸腺腫に集積することが判明してきた。今回、胸腺疾患20例について、²⁰¹Tl、⁶⁷Ga、⁷⁵Seの三核種のimageと組織、手術所見の結果を比較検討した。

²⁰¹Tlシンチグラフィを行なった20例中13例において胸腺腫の存在が確認された。このうち10例に²⁰¹Tlの集積がみとめられた。⁶⁷Gaは²⁰¹Tlに比較し陽性率が低くまた集積度の比較では胸腺ホジキン病の2例を除き²⁰¹Tlの方が強度であった。²⁰¹Tlの強度集積は、上皮細胞型のものに多い傾向がみとめられた。また、²⁰¹Tlと⁶⁷Gaとでは同一腫瘍でも集積度のみならずその分布に差がみとめられた。⁷⁵Seは²⁰¹Tlに比較して陽性率も低くimageでも²⁰¹Tlの方がはるかに良好であった。

胸腺腫瘍のimagingには、最所に²⁰¹Tlが選ばれるべきと考えられた。

410 悪性リンパ腫における⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィの有用性の再検討

高木八重子、大東紀子、久保敦司、橋本省三(慶大、放)

⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィは各種悪性腫瘍、炎症病巣の検出に有用であり、なかでも悪性リンパ腫が非常に高い陽性率を示す疾患であることは広く知られているが、悪性リンパ腫の局在診断、病期決定、および治療経過の観察における⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィの位置づけは必ずしも明確ではなく、cost effectivenessをも考慮すると、⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィの有用性を疑問視する意見もある。

今回我々は、悪性リンパ腫の疑いのもとに⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィを行った150例について、個々の症例の診療上、臨床医の診断、病期および治療方針の決定に対して、⁶⁷Ga-citrateシンチグラフィの結果が及ぼした影響について検討し、他法との比較も行ったので報告する。

411 腎腫瘍患者のガリウムシンチグラムの検討

本田 実、高慶康子、古賀 靖、片山通夫
(昭大藤が丘、放)

ガリウムシンチグラムに於て、腎腫瘍が描出されることは比較的少ないと言われている。しかし、腎腫瘍患者のガリウムシンチグラムで、明らかに腎に一致してRI集積がみられる症例もある。

今回、我々は、最近7年間の腎腫瘍患者のガリウムシンチグラムを再検討し、手術前に陽性像を示した群、手術後に陽性像を示した群および陰性群に分類した。手術前に陽性像を示した群には、腎腫瘍に伴う炎症あるいは膿瘍のため陽性になったと考えられるものが含まれていた。また、手術後に陽性像を示した群では、再発ないし炎症が疑われた。

腎腫瘍でガリウムシンチグラムが陽性となる場合、腎腫瘍そのものにとりこまれるだけでなく、腫瘍周囲の炎症や合併した尿路感染等が関係してくると考えられる。この点を、陽性群について、陰性群と対比させ検討する。

412 ⁶⁷Gaシンチグラフィによる原発性肝癌の肝外性

転移の検出に対する有用性

金子邦之、仲山親、中田肇、高橋里美(産医大、放)

原発性肝癌の肝外性転移を剖検例で検討した報告は少なくないが、生前に検討したものは少ないようである。⁶⁷Gaシンチグラフィ(⁶⁷Gaシンチと略)は肝癌についてはこれまで主として原発巣への集積が診断的意義の対象として評価されてきたようである。今日われわれは、⁶⁷Gaシンチが肝外転移巣の検出にも有用ではないかと考え検討したので報告する。

対象は確診の得られた原発性肝癌46例である。⁶⁷Ga-citrate 3mCi静注3日後に全身の検査を行った。肝の原発巣については正常部位との比較により、他の部位についてはX線、CT、骨シンチグラフィ、理学的所見などと比較した。少数例については剖検所見も参考にして肝外転移巣への集積の有無を検討した。

⁶⁷Gaは肝癌のみならず転移巣にも無視できない頻度で集積がみられた。肝癌の治療方針や予後の決定には遠隔転移の有無は重要な因子と思われ、⁶⁷Gaシンチにおいては原発巣への集積の有無のみでなく、遠隔転移への集積についても十分注意して検討すべきである。